

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
			○	

事務事業No 634 事業名 こども科学館管理事業

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	2	青少年の健全育成
施策	1	青少年の健全育成
基本方針	2	青少年の健全育成環境の充実

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間	S56年度	～ 永年
事業実施の根拠法令		
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	学校教育課	林 素秀 (435-1139)
関連課		

〔事業基本情報〕

事業区分(1)	事業経費		管理経費	○
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		社会教育費	
	目		こども科学館費	
	大事業		こども科学館事業	
	事項		こども科学館管理事業	

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か） こどもの自然科学に関する興味と認識を深め、個性に応じた能力の伸長と情操豊かで創造的なこどもを育成する。	事業内容 建物管理 来館者が快適に過ごせるように建物を管理する。 入館者管理 入館券、プラネタリウム観覧券の販売、収納金の管理、報告等。 その他 科学館の運営に必要な事務処理等。				
	実施内容	平成25年度 こども科学館入館者数 29,814人	平成26年度 こども科学館入館者数 40,000人	平成27年度 こども科学館入館者数 40,000人	平成28年度 こども科学館入館者数 40,000人	平成29年度 こども科学館入館者数 40,000人

2 事業コスト

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算	計画	決算
事業費	11,030	9,764	12,406		12,406		12,406		12,406	
伸び率 (%)	-	-	12.5%		0.0%		0.0%		0.0%	
人件費	常勤職員	7,539	7,805	7,658	7,658		7,658		7,658	
	非常勤職員	3,515	3,512	3,512	3,512		3,512		3,512	
	小計	11,054	11,317	11,170	11,170		11,170		11,170	
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他	5,202	5,021	8,199		8,199		8,199		8,199	
一般財源(税等)	5,828	4,743	4,207		4,207		4,207		4,207	
所要人数	常勤職員	1.01	1.03	1.01	1.01		1.01		1.01	
	非常勤職員	1.67	1.67	1.67	1.67		1.67		1.67	
主な予算内訳	光熱水費5,260千円、管理委託料5,902千円									

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	開館率 (開館日数/開館可能日数)	年度目標値			100	100	100	100	100
		実績値			100				
	単位 %	全体目標値		全体目標達成度	100.0%				
		年度別達成度							
成果指標	こども科学館入館者数	年度目標値			24,000	40,000	40,000	40,000	40,000
		実績値			29,814				
	単位 人	全体目標値		全体目標達成度	44.2%				
		年度別達成度			124.0%				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	科学を通して子どもの健全育成を目標とするこども科学館は、来館者が増加していることから市民のニーズがあり、和歌山市に必要な施設である。
「見直し」 「改善」案	